

法務省“社会を明るくする運動”中央推進委員会主催

第６６回“社会を明るくする運動”作文コンテスト

**私にできること**

神奈川・由川　すみれ

　人が困っていたら，悩んでいたら，悲しんでいたら，声をかける勇気が必要だと思います。人に声をかけることは，悩んでいる人の悩みが消えることにも，困っている人を手助けすることになるかもしれません。私は，声をかけることが，人を助けることにつながる第一歩になると思います。そして，犯罪や非行をなくす第一歩にもなると思っています。

　毎日のように，テレビや新聞で犯罪のニュースを見聞きします。そのたびに「何でこんなにひどいことをする人がいるんだろう。」と悲しくなります。生まれたときは，みんな同じかわいい赤ちゃんだったのに，なぜ，人は犯罪や非行を行ってしまうのか。私の考えた原因は，「暗い気持ち」です。それは自分を認めてもらえなかったり，失敗しておこられたり，信頼できる仲間がいなくてさびしかったりという，悲しいときや辛いとき，いらいらしているときの気持ちのことです。この気持ちが，他人をきずつけたり，ルールを守らなかったりという行動を起こさせてしまうのではないでしょうか。そんな暗い気持ちを少しでも減らすことができれば，犯罪や非行が減り，被害にあって悲しむ人もきっと減ります。悪い事をしている人を直接止めることは難しいけれど，暗く，マイナスの気持ちを抱える人を減らすことは，私にもできると思います。

　もしも，自分のそばに一人で暗くしずんでいる人がいたら，まず声をかけることが大切なのではないかと思います。私は，四年生の時，運動会のダンスが覚えられずに落ち込んでいたことがありました。みんな上手におどっているのに，私はなかなかうまくいかず，だんだん練習がいやになり，投げやりな気持ちになっていました。そんなときに，友達が私を見て，「どうしたの？」と声をかけてくれました。友達に話したら，いっしょにダンスの練習をしてくれて，気がつくと，一緒におどるのが楽しくなっていました。あのとき，友達が声をかけてくれて，とても気が楽になりました。もし，声をかけてもらえなかったら，私はずっと悲しいままだったかもしれません。「大丈夫？」や「どうしたの？」の一言でも，それが大きな心の支えになり，声をかけてもらった人は，悲しい気持ちや悩みが減ると思います。そして，とてもスッキリと晴れやかな気持ちになることができると思います。やさしくしてもらったということで，心がおだやかになって，人にもやさしくなり，だんだんやさしい人の輪が広がるかもしれません。

　一方で，声をかけることは，簡単そうに見えて，難しいこともあります。悲しんでいる友達をはげまそうと思って，楽しい雰囲気にしようと言った言葉が，逆に友達をいやな気持ちにさせてしまうこともありました。言葉の受け取り方は人によってちがうということを考えて発言すれば良かった，と後かいしたのを覚えています。それからは，相手の気持ちを考え，相手のことを大切に思う気持ちが伝わるような言葉を選びたいと思っています。

　難しいかもしれないけれど，声をかけることが，やさしく，明るい気持ちの人がたくさんいる世の中へなっていくための第一歩になると思います。「たった一歩だけ」が「大きな一歩」になり，だんだん平和な世の中になっていくかもしれません。そのために，まずは自分が勇気を出して一歩ふみだし，近くの人からでも，少しずつ，やさしく思いやりのある人，声をかけ合うことができる人を増やせたらいいなと思います。私も，まだ，あまり声をかけることができていません。だから，これからは，たくさんの人に声をかけていきたいです。